

## 卯の花（賑民寿万歳）

へ卯の花の 雪で兔を作るなら 目にはほどよき花落の 茄子の走りに  
浪越えて 高値はまけぬ初がつお 釈迦の誕生指させど 天にも地に  
もたゞ一本 一杯飲んだ酒きげん まだあと船や日和下駄 来るか／＼  
と川岸へ出て見れば 船は屋根船 佃ぶし オット危ねえ 長箱の

へ先へ二上りさん橋や 是非に御見と書く文は 筆の鞘町か西川岸か  
うまい仲町中空に てっぺんかけたと鳴いて行く

へ時鳥過ぎて雨晴れて 千種の花の露しげみ なお光添う秋の夜の

へ月の影さへ隅田川 いざ言問わん都鳥 あれの枯野と向島 誰が庵崎  
か琴の音も この頃遠し冬籠り ふりの日脚も節季候の さっさとご  
ざれ年の暮

へ一ト夜明くればおのずからのどけき春の朝ぼらけ 梅に来て鳴く  
鶯に 初音ゆずりて才若が 千代の小鼓おっとりて 万々歳と祝う寿  
久しけれ。